

お金のデメリット

お金を支払う事で、ほぼ何でも手に入る社会であるが、

- ①欲しい→お金をイメージ→余裕→購入
- ②欲しい→お金をイメージ→余裕→しかしもっと安く購入するため考える
- ③欲しい→お金をイメージ→余裕がない→他の手段により購入を考える
- ④欲しい→お金をイメージ→余裕がない→すぐに諦める

人間は欲の塊であり、その欲求に対して誘惑させる物がお金である
欲を満たすためのと壁の高さは以下になるであろう

①→④→③→②

上記の順位を詳しく説明する

- ①・・・至って条件反射的な行動で、お金があるから欲しい物を買う
- ④・・・日頃の生活で断念する習性度が高いため、諦めが速い（条件反射に近い感覚）
- ③・・・通常はお金が不足していて買えないが、他の手段で購入しようとする
- ④・・・簡単に買えるのだが、あえて他の手段で安く購入しようとする

（注意）

上記分類に対してあたかも①を可能にさせている仕組みが、
ローン・クレジット払いである
簡単が故に私自身も今の状態に至っているのもまた事実

★思考とシナプスの関係☆

*シナプス可塑性の促進

シナプスは活動量に応じて強度が変化する性質（可塑性）があり、思考や学習によって特定のシナプスが強化されます。

繰り返し同じ思考や行動を行うことで神経ネットワークが強固になり、思考パターンが確立されます。

脳の予備力増加

活発な思考や知的活動は、神経細胞間の新しいつながりを刺激し、将来の細胞損失に備えるための「機能的な予備力」を築き上げます。

☆脳に良い思考習慣の例★

*** 知的な刺激**

読書、語学学習、楽器演奏、パズルなどの知的な活動は、シナプスを刺激し、脳の記憶力や注意力を高めます。

*** ポジティブ思考**

楽観的で前向きな考え方は、神経可塑性を高め、脳内のセロトニンを増加させます。これにより、幸福感や精神的な安定性がもたらされます。

ネガティブな感情に陥りにくく、思考の習慣をより肯定的に方向づけることができます。

*** 脳科学理論で既に証明済みの内容**

人間は考えることにより、神経伝達物質であるシナプスがより光り輝き脳内で成長し、思考回路が維持発達、認知機能にも大きな好影響を与える